

## ◆平成25年度の集大成

## 卒業研究・ケアスタディ発表会 を終えて

専門学校静岡電子情報カレッジ

静岡福祉医療専門学校

校長 中村 徹

文化祭

専門学校静岡電子情報カレッジ 卒業研究発表会

平成26年2月22日(土)

静岡福祉医療専門学校 卒業研究・ケアスタディ発表会

平成26年2月21日(金)

## ケアスタディ科内発表会

静岡福祉医療専門学校

2年介護福祉学科

平成26年2月18日(火)

2年総合福祉学科

平成26年2月19日(水)

## 卒業研究学科内発表会

専門学校静岡電子情報カレッジ 全学科

平成26年2月14日(金)

静岡福祉医療専門学校

2年医療情報秘書科

平成25年12月6日(金)

3年子ども心理学科

平成26年2月13日(木)

## キッズハウスひかり託児所生活発表会

平成26年3月1日(土)

平成25年度の学生生活集大成である「卒業研究発表会」と「ケアスタディ発表会」が文化祭のイベントとして、本学の教育をご理解いただいている企業人や実習指導者、卒業生、地域活動でお世話になった方々等のご臨席を頂き開催された。

我々を取り巻く社会的背景は、経済的には3年目を迎える東日本大震災からの復興需要や政策効果等により徐々に回復に向けた明るい動きが見られるが、世界経済の減速等を背景として輸出や生産が減少するなど景気は弱い動きとなり、貿易収支は過去にはあまりみられない、1兆円超えの赤字である。

平成25年度の我が国経済は、「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」のアベノミクス「三本の矢」による一体的な取組み政策効果から、家計や企業における消費等の内需を中心として景気回復の動きが広がっている。また、企業収益の増加から設備投資が持ち直し、雇用・所得環境が改善していく中で、景気回復の動きが見込まれる。こうした中、日銀の「量的・質的金融緩和」効果により消費者物価は5年ぶり0.7%程度の上昇に転じ、GDPは2.6%の成長率であった。

この平成26年度の日本経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要や「好循環実現のための経済対策」など、内需に支えられた景気回復が見込まれ、好循環が徐々に実現してきた。また、物価については、上昇率が高まり、消費者物価は約3.2%と見込まれ、労働市場の改善を伴いながらデフレ脱却に向け着実な進展が見込まれる。

この結果、今年度のGDPは3.3%程度の成長率と見込まれ、世界経済の緩やかな回復を背景に輸出が増加し、貿易収支の赤字は緩やかに縮小すると見込まれ、経常収支黒字は緩やかに増加する。貿易黒字国日本復活を目指せ！！

また、静岡県内でも消費性向が回復、沈滞ムードが徐々に払拭され、車関係産業等の生産活動が勢いを取り戻し、4月のベースアップによる雇用者所得の上昇、消費および雇用の喚起、内需回復という強い「景気浮揚サイクル入り」が期待できそうである。

日本経済復活のために、「デフレ脱却・経済再生」と「財政健全化」の両立の実現を目指す。

我々の経済社会においては、

- ①大震災からの復興、
  - ②原子力代替エネルギー、
  - ③少子・超高齢化社会と人口減少への対応、
  - ④TPP：環太平洋戦略的経済連携協定の対応⇒農業改革、
  - ⑤大量生産・大量販売の時代が終わり、「物づくり」の新たな模索
- などが大きなキーワードとなる。

資源が乏しい我が国は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少がみられるなか、「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となり、①産業構造の変化に対応できる「実践的な職業能力を有する人材」、②将来にわたり「付加価値を創出する質の高い人材」、③労働力のグローバル化が進展するなか「国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材」などの社会基盤を支える「人づくり」が急務といわれる。

しかも、少子化が進み、日本の総人口は2007年1億2800万人をピークアウトに、高齢者率18.5%（うち後期高齢者8%）、生産年齢人口（「国の力」といわれる）60%が、2050年には総人口9,500万人、高齢者率35%（うち後期高齢者25%）、生産年齢人口50%と減少し、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。

専門学校の教育の特徴は、その柔軟性にあり、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に添えていくかが使命である。この社会における専門学校の職業教育の必要性・重要性がより一層増してきているのだ。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携人材育成プログラム」等の「就業体験」や「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」などの素養を身につける機会を教育プログラムに取り込んでいる。

また、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「職場実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身につけなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を「自らが認識できるような教育プログラム」を構築している。

発表会においては、電子では他学科の学生同士のスキルや少子高齢社会を反映した医療・福祉知識等によるコラボレーション研究で「高付加価値」につながるハイレベルな研究発表がなされた。

また、福祉では各学科ともそれぞれの職業観がよく表現され、来賓も教職員も「若い感性」による上達したプレゼンに称賛の拍手を送った。

この成果は来年度に継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。

特に、電子の「産学連携人材育成プログラム」や「コラボレイトによる高付加価値につながるレベルの高い研究」、福祉においては「地域に開かれた専門学校」に基づく3年総合福祉学科の9年目を迎えた「ボランティア：地域活動」等の後輩への継承を強く期待する。

今後も研鑽重ね、「自信」と「誇り」を持ち、「スペシャリスト」としての道を切り拓いていただきたい。

社会にアプローチできる研究テーマへチャレンジし、そのプロセス、プレゼンテーションを通じて自己のスキルアップが図れるのだ。

## 《卒業研究、ケアスタディ発表会—コンセプト》

1. 時代に即した、将来に向けた研究テーマであること
2. 修得した専門知識と技術の集大成であること
3. コラボレイトにより、関連知識の幅を広げ、汎用性・応用性を身につけること  
⇒「高付加価値」に繋げる
4. グループ研究であること—グループ内のインターフェイス（ケアスタディ発表会は個人）
5. プレゼンテーション、コミュニケーション、ドキュメント等の技法をマスターし、アピールする手法を身につけること
6. 「企画書」、「スケジュール進捗状況管理」等を作成し、与えられた時間内で完成する計画的な研究を目指すこと
7. 完成度を100%にもっていくこと
8. 発表の際には、自分の資料を読むのではなく、自分の言葉でプレゼンすること
9. プレゼンの中に、「研究の中で一番試行錯誤した点」や「それが将来どのような分野で、どういう形で役立っていくか」等をマトメの中に含み、可能なら「継続研究」につなげること

◆平成25年度文部科学省  
成長分野等における中核人材養成の戦略的推進事業

ゲーム分野における産学連携型  
中核人材養成推進プロジェクト

GCS2014 Game Confarence for Students  
において

おめでとう！！昨年度のエントリーチームに続き

専門学校静岡電子情報カレッジ 2IS 富永 2MS 野口 1IS 池谷が



Gree(株) 企業賞

受賞！！

・「GCS2014」イベントとは  
GCS…Game Conference for  
Students  
ゲーム業界と学校との産学連  
携を推進するために実施される  
「学生のためのゲーム作品発  
表・展示会」のこと。

本年は2月25日(火)、26日(水)にかけて東京 両国にある国際ファ  
ッションセンターにおいて実施。全国の専門学校よりゲーム作品を募り、マ  
イクロソフト、カプコン、フロムソフトウェア、グリーと言った名だたる  
一流ゲーム企業の方が審査をしてくださるイベントであり、出展されるゲ  
ーム作品のレベルも非常に高い。

<参加学生3名>

ICT 情報システム学科ゲームクリエイトコース2年 富永 祐太  
医療情報システム学科2年 野口 凱登

ICT 情報システム学科ゲームクリエイトコース1年 池谷 研人

<ゲーム作品名>

Mr Program Code Man (アクションゲーム)

<ゲーム企業からのコメント>

アイディア・企画がすばらしい。とても良い着眼点だった。今後の発展が  
大いに期待できる。ビジネス的にも可能性のある内容だ。

「GCS2014に参加して」

ICT 情報システム学科 2年担任 鈴木 正章

学生達は、自分の将来の為に精一杯ゲーム開発に取り組みました。努力  
の甲斐あり、審査員賞の一つである「グリー株式会社賞」をいただきました。  
彼らの頑張りには、大きな感動を致しました。ぜひ、この成果を将来  
に結び付けてほしいです。

今後のさらなる活躍を期待しています。開発にあたって、ご協力頂きま  
した諸先生方、学生の皆さん、本当にありがとうございました。

◆卒業研究発表会・ケアスタディー発表会を終えて

教頭・教育部長 有賀 浩

<電子情報 企業対象卒業研究・修了研究発表会>

○発表会御参加講師 (順不同)

- ・SSB ソリューション株式会社 専務取締役 池谷 和彦様
- ・アイティ・インターナショナル株式会社 代表取締役 長坂 祐二様
- ・有限会社ナカノデザイン 代表取締役社長 ナカノヤスヒロ様
- ・株式会社ワークノアート 取締役社長 岩山 友樹様

○ご出席頂いた企業の方々からの各グループに対するコメント[一部抜粋]

<1>

- ・電子と福祉のコラボであるテーマ選定が良い
- ・介護現場をサポートできるシステムは素晴らしい
- ・ヘルプ機能の追加、デフォルト値設定に工夫が欲しかった
- ・シンプルな構成で、実践的に使えそうなシステムだ
- ・コミュニケーション機能を是非取り入れて欲しい
- ・UIに更なる工夫を

<2>

- ・技術力も完成度も非常に高く、驚いた
- ・映像もよく、また音が映像によく合っていて音質も良い
- ・生音のレコーディングは素晴らしい
- ・制作プロセスもプレゼンして欲しかった
- ・文字の説明や台詞を省けば、見る側の想像がもっと膨らむ
- ・様々な作品を観て演出方法を学ぶと、より良い作品が生まれる

<3>

- ・新しい技術への挑戦が良かった
- ・とても面白い研究内容で、勉強になった
- ・研究の見せ方に工夫があるとよい
- ・どのように使えるのか、発表のボリュームを増やして欲しい
- ・より一般人向けとする、技術的説明に特化する、というプレゼン方法も  
ある

<4>

- ・音楽PVなので、音楽制作にもっと注力して欲しかった
- ・大作に取り組んだことは評価できるし、力作である
- ・チームワークの良さや達成感が伝わった発表だ
- ・随所に工夫が見られて良い
- ・研究への情熱が十分感じられた
- ・「プロジェクトマッピング」はやや期待外れだった

このように、企業の方々から各研究のテーマ選定、着目点、実用性や完  
成度の高さ、また研究のプロセス(分析や実験、検証)に対して高い評価  
を頂くとともに、更なるブラッシュアップについてもプロの立場からご指  
導頂きました。また、今後の本学と産業界の連携協力についても企業の方々  
に対して十分にアピールできました。

学生諸君は、チームワークによって充実した研究が行えたこと、チーム  
内のコミュニケーションやスケジューリングの難しさ・重要性と達成感の  
体得、またプロの方々の前でプレゼンテーションさせて頂き評価して頂い  
た、この貴重な経験を卒業後も十分に活かし、実社会で大いに活躍して下  
さい。後輩諸君には、先輩たちの研究レベルを超えられるよう、一層の頑  
張りを期待します。

○発表テーマと学生メンバー

- (1) 介護記録電子化システム「こころ・こねくと」の設計・開発  
志村 貴洋、朝倉 優佳、小出 真由美  
(ICT 情報システム学科 システムエンジニアコース 2年)
- (2) 3DCG プロモーションビデオ「軌跡の在処」の制作  
落合 布暁、柿澤 志保  
(ICT 情報デザイン学科 映像デザインコース、  
音響デザインコース2年)
- (3) NFC を用いた認証システムの設計・開発  
望月 誠、久島 隆晃、近藤 博文、山本 浩之  
(テクニカル研究科1年、ICT 情報システム学科  
組込システム開発コース 2年)
- (4) プロジェクションマッピングを用いた音楽プロモーションビデオ  
「You can catch dream」の企画・制作  
大塚 良祐、秋本 早紀、朝比奈 亮輔、石川 翼、岩堀 未来也、  
久保田 由紀、剣持 竜二、西村 将希  
(ICT 情報デザイン学科 映像デザインコース、  
音響デザインコース2年)

医療情報システム学科長 齋藤 秀樹

学科を超えたチーム編成、姉妹校である静岡福祉医療専門学校とのコ  
ラボを意識したテーマ選定など、学生自らが主体となり、今までに学んだ  
こと以上のものにチャレンジし、試行錯誤しながら取り組んだ卒業研究にお  
いて、各チームとも、その研究・作品を、最後まで、さらに良いものにし  
ようとする意欲・情熱が伝わってきました。

この経験で得たことを活かし実社会で活躍されることを期待しています。